

# 平成 29 年度全国木材資源リサイクル協会連合会

## 第 1 回理事会 議事録

日 時 : 平成 29 年 4 月 26 日 (水) 14 : 30~16 : 05

場 所 : 中央区立環境情報センター 研修室 2

総 役 員 : 理事 13 名、監事 2 名

出 席 : 理事 9 名

鈴木 隆、藤枝 慎治、山口 昭彦、鷹野 賢次郎、片岡 重治、  
中野 光、櫻井 慶、徳山 重男、船越 登

監事 2 名 矢吹 賢二、田中 一正

書面表決 : 理事 4 名

中山 智、石田 謙治、河本 一成、澤地 義雄

欠 席 : なし

オブザーバー出席 : 彦坂 武功名誉会長、北日本協会事務局・高橋 秀孝、小島 雄一、  
東海協会事務局・三崎 隆照、九州協会事務局・河野 秀彦  
関東協会事務局・戸取 明子

報道関係 日報ビジネス・徳永 杉太

連合会事務局 原 信男 事務局長、十川 有子

### 議 事

第 1 号議案 平成 28 年度事業報告

第 2 号議案 平成 28 年度決算

第 3 号議案 平成 29 年度事業計画

第 4 号議案 平成 29 年度当初予算

第 5 号議案 役員の改選

その他

(1) 調査広報委員会報告

(2) その他

ア 平成 29 年度通常総会について

イ 賛助会員新入会報告

ウ 木材サミットについて

・建設系廃木材需給調査報告(概要)について

・POPs 廃棄物に係る実測調査報告

## 議 事 内 容

司会 事務局長 原 信男

### 1 あいさつ 鈴木 隆 理事長

本日は新年度初めての理事会になるが、5月19日の通常総会に向けた内容となる。平成28年度はおおむね順調に事業を推進できたのではないかと考えているが、29年度も更なる活性化をするべく皆様にご協力のほど宜しくお願ひしたい。

### 2 理事会の成立

開会に当り事務局から、理事13名の内、9名が出席していること、欠席理事4名については議事について事前に書面表決をいただいていることにより理事会が成立していること、監事2名は出席されている旨の報告があった。

### 3 議事録署名人の選任

事務局から指名することについて了解を得て、関東協会・徳山理事、近畿協会・船越理事の2名を指名した。

### 4 議長選任

定款に則り、鈴木理事長が議長を務めることとした。

### 5 議 事 議長 鈴木 隆 理事長

#### 第1号議案 「平成28年度事業報告」 (原事務局長)

連合会の定款に定める6つの事業別に報告があった。

1 木材資源等の再利用に関する出版物、ホームページ等による普及啓蒙事業としては、関係会議、講習会に参加し、情報収集したほか、連合会通信を12回配信した。その他、平成27年度からの継続事業として、ホームページ内の木材リサイクルマップの大幅改訂を行い、都道府県別に木質チップメーカーの所在地を地図上にわかりやすく情報提供できるよう変更した。

2 不法投棄等に関する環境保全のための、イベント、セミナー、シンポジウム、講演等の開催事業としては、6月7日に講演会を開催したほか、10月には建設副産物リサイクル広報推進会議主催の「建設リサイクル技術展示会」に出展した。また、環境教育の分野では、例年出展しているエコ・プロダクツ2016に出展した他、中央区立環境情報センターにて「リサイクル木材で本棚をつくろう」という講座を開催した。

3 リサイクル技術及びリサイクル関連法案整備のための調査・研究事業では、28年度の重点事業として「建設系廃木材需給調査」をコンサルタント会社に委託し検討した。この委託については年度内の納品とならなかったため、29年度に支払うこととした。本調査は主に木材資源リサイクル調査及び広報活動推進委員会で検討し、内容について

は後ほど説明させて頂く。その他、例年行っている各種調査、FIT 事業者認定事業、国への要望行動を行い、国への要望についてその回答を聞く「木質チップに係る需給問題検討会」については、要望書を提出した4省庁すべてが出席した。先進事例視察としては、10月に九州にて中国木材(株)日向工場、(株)エフオン豊後大野、熊本県災害廃棄物保管・選別施設の視察を行い、23名の参加者があった。

4 木材資源等の再利用を通じた環境保全に関する情報提供事業としては、27年度は全国大会のため開催しなかったユーザー懇談会を開催した。その他ホームページ等通信手段を活用し、木質チップ市場価格やFIT認定事業者一覧などを幅広く情報提供した。

5 木材資源等の再利用に関する活動を行う団体に関する助言、指導又は援助事業としては、各地域協会との連携を密に行い、その他関係団体の会議および連絡会に出席した。

6 その他本法人の目的を達成するために必要な事業について、熊本地震を受けて「熊本地震義援金」の募集を行ったところ、合計23件140万円の義援金が集まり、益城町と南阿蘇村へそれぞれ70万円ずつ送金した。

本議案について、特に意見なく了承されたので、総会に上程することとされた。

## 第2号議案 「平成28年度決算」

(事務局 十川)

貸借対照表、活動計算書事業内訳、参考資料に基づき事務局から報告があった。経常収益については、会費収入については予算通りとなり、また受取寄付金が目標の300万円を超えたこと、その他収益ではエコプロダクツの協賛金、環境保全の分析調査の委託還元金、講師料等の収入があったと説明された。

支出面では、連合会職員2名が平成28年7月から社会保険に加入したため法定福利費の大幅増となった。その他本年度の特別支出として、ホームページのリサイクルマップ改訂のためのHP管理費、熊本地震義援金として支出した災害援助費、事務局のPCの入れ替え及びセキュリティソフトの変更として支出した備品費のため、決算額が増加したとの説明があった。また、業務委託費の支出率が少ないことは、平成28年度に支出する予定だった「建設系廃木材需給調査」の委託金について、納期の遅れに伴い平成29年度に支出することとなったとの説明があった。

以上、本議案の報告に対して、特に意見はなく了承されたので、総会に上程することとされた。

## 第3号議案 「平成29年度事業計画」

(原事務局長)

事業計画について資料に基づき事務局から説明があった。

現在、FIT制度や、燃料調達の新しい動き、物流部門における人材不足等、連合会を取り巻く状況は厳しい局面を迎えている。こうした状況を踏まえ29年度事業においても、「構想を提案する団体」として、循環型社会形成の推進に寄与する事業を確実に

推進していくという説明があった。

具体的な事業計画として、事業報告と同様に事業計画も 5 つの定款に則って記載することとした。

1 木材資源等の再利用に関する出版物、ホームページ等による普及啓蒙事業としては、ホームページの活用や関係会議や講習会へ積極的に参加し、情報収集及び情報提供に努める。

2 不法投棄等に関する環境保全のための、イベント、セミナー、シンポジウム、講演等の開催事業としては、講演会等の開催のほか、社会貢献・CSR活動として連合会の事業活動の広報に努めるほか、地域での環境講座等に積極的に参加していく。具体的には昨年度の「リサイクル木材で本棚をつくろう」という講座は 3 回ほど予定しており、着実に拡大できるよう推進していく。

3 リサイクル技術及びリサイクル関連法案整備のための調査・研究事業では、昨年度からの「建設系廃木材の需給調査」の結果を踏まえ、関係団体等の意見聴取を経て、連合会としての情報発信や意見提出のための資料として活用していく。また国への要望については、効果的な要望を行うため、課題となる要望事項について検討する。

4 木材資源等の再利用を通じた環境保全に関する情報提供事業としては、ユーザー懇談会等の開催の他、会員不在県の解消に努める。

5 木材資源等の再利用に関する活動を行う団体に関する助言、指導又は援助事業としては、各地域協会との連携を密に行い進めていく。また、寄付金の募集について、経常的に費用が増えている科目もあり、引き続き前年同様 300 万円の目標金額を設定し、支援をお願いする。

以上の本議案の報告に対して、特に意見はなく了承されたので、総会に上程することとされた。

#### **第 4 号議案 「平成 29 年度当初予算」**

(原事務局長)

予算について、資料に基づき事務局から説明があった。

収入は、会費、寄付金、事業収益とも前年度とほぼ同額を見込んでいる。

支出として計上した項目のうち、28 年度決算と比較して予算が多い科目として、法定福利費については、決算でも説明があった連合会職員の社会保険経費としての必要額となる。業務委託費は「建設系廃木材需給調査」は前年度からの繰越し事業として 29 年度に支出するため計上する。印刷費については連合会パンフレットの印刷等のため多めに計上している。その他、収入面の各地域協会の会費負担額については現時点では確定していないこと、支出面の人件費については、職員の給与規定の改定に伴い今後変更があるため、全体の予算を調整した後、この提案について、総会に上程することとなった。

## 第5号議案「役員の変更」

(原事務局長)

事務局から、専務理事の澤地義雄氏の退任に伴い、現職事務局長の原信男氏を後任として推薦すること、他の役員は留任とすることが提案された。役職については、総会で役員が決定した後、理事の互選によって決まるため、役職は総会の途中で臨時理事会を開催し、その場にて決定することとする。また理事の定数については、定款上では15名であるため、理事会として必要な人材を新任役員として推薦することも可能という説明があった。

議長 理事長職については、今回の総会で交代して、新しい体制で進めていただきたいと考えている。

この提案について、新任役員については推薦する候補者がいれば、総会までに事務局へ連絡し、総会にて上程することとする。

## その他

### (1) 調査広報委員会報告

(原事務局長)

事務局から総会に説明する内容として、資料に基づき、平成28年度の活動として、主に「建設系廃木材需給調査」について報告があった。委員会の第1回～第3回は調査内容の整理を行い、第4回で委託先の国際航業(株)から報告を受けた。その報告では、過去の着工戸数と滅失確率により将来の解体戸数を予測した結果、今後10年間は発生量が増えつつあるが、増加していく予測となった。この報告に対して着工と解体の相関関係や、人口減、住宅の長寿命化等が加味されていないこと、推計に幅がないこと等の意見が出された。第5回委員会では、国際航業(株)からの木くずの発生量と着工戸数の相関関係は薄いという説明を報告したが、これについても相関関係がないとする場合の分析がないこと、パレットの扱い、建物寿命だけの推計は根拠が弱い等の意見が出され、再度、事務局と国際航業(株)で打ち合わせを重ねた。第6回委員会では、発生量の推計を従来の滅失確率に基づいた手法に加え、住宅の着工戸数と除去数の相関関係から将来の解体戸数を推計した。その結果、着工と発生量が相関する推計では2030年には56%の減少が想定されるとの説明があり、2つの推計結果を並列する形で提示した。

今後は、この報告結果から関係機関との意見交換を経て、連合会として公表していく旨、調査広報委員会でもまとめられた。

この他、例年実施している各種調査や、国への要望事項に加えて、廃合板型枠の動きについても検討した。

また、29年度の委員構成として、専務理事交代に伴う委員長交代、北日本協会事務局長交代に伴う地域委員交代、その他の委員については留任とする旨の説明があった。

## (2) その他

(原事務局長)

### ア 平成 29 年度通常総会について

平成 29 年度通常総会について、事務局から説明があった。5 月 19 日(金)文京シビックセンターにて午後 1 時半から行う。講演会は国際航業(株)の主任研究員の澤田氏にお願いしている。

### イ 賛助会員新入会報告

連合会の賛助会員の新規入会について事務局から説明があった。(株)エコナビ・リファインという宮城県仙台市の企業で、JFE 環境(株)の推薦により 4 月 1 日から賛助会員として入会された。連合会賛助会員は現在計 15 社となった。

### ウ 木材サミットについて

7 月 3 日に木材サミットが開催されることに関連して事務局から説明があった。木材サミット連絡会において、アンケートの依頼が来ている。とりわけ「FIT によるバイオマス発電について生じている問題等の事例集約について」は地域協会との連携を取りながら、意見集約して提出することとした。

議長 以上で理事会の議案及びその他の説明を終了する。何か質問意見等あるか。意見がなければ、ここで議長を辞させて頂き、引き続き事務局からその他事項の説明をお願いする。

### 建設系廃木材需給調査報告(概要)について

(原事務局長)

昨年度、調査広報委員会で検討してきた本調査結果について、事務局から再度詳細な説明があった。

本調査は建設系木質チップ等について今後の需給を推計し、連合会としての情報発信、意見提出のための資料作成を目標として検討した。具体的には木質チップの供給と需要について、それぞれ 2030 年まで推計し、供給については建設系廃木材の発生量の推計及び建廃以外の木質資源について検討した。

#### 【発生量の推計】

建設系廃木材の主たる発生要因となる木造一戸建て住宅の解体による廃木材を対象とし、その発生量については、木造戸建ての年度ごとの解体戸数×木造戸建て一戸当たりの延床面積×単位延床面積当たりの木材発生量により求める。

過去の着工戸数については、国交省と総務省のデータから求め、統計情報では不足する部分はトレンド推計により算出した。将来の着工戸数については野村総研の推計データを使用した。全住宅着工戸数に占める木造住宅割合の推移については、統計データの無い期間はトレンド推計により算出、木造住宅の建て方別着工割合の推移については統計データの無い 1987 年以前と 2016 年以降はそれぞれ直近 10 年間の平均値を使用、木造戸建て住宅一戸あたりの延べ床面積の推移は、統計データの無い期間はそれぞれ直近

10年間のトレンド推計により算出した。

上記を踏まえ、解体戸数の見込みを算出するが、住宅の寿命を基に解体戸数を求める「区間残存率推計法」により、分布関数ワイブル分布を求め推計した。この手法によると、先行研究の調査先が北海道内建築物に限定された調査であったこと、住宅の長寿命化が反映されていない等の問題があるものの、現在使用できる滅失確率の手法としては信頼できるものと考えられる。具体的には築年数が39年で最も解体される確率が高くなるというこの予測を基に推計すると、木造住宅の解体戸数は2016年の47.3万戸(619万t)から2027年の49.8万戸(659万t)まで微増していき、その後減少に転じるという結果となった。

一方、住宅の着工戸数の低下に伴い発生量も減少することも予想され、住宅の着工戸数と除去数との相関分析を行ったところ、高い相関が見られたため、住宅の着工の減少に伴う除去数の減少を考慮した解体戸数も算出した。その結果、2016年47.3万戸(619万t)から2030年21.7万戸(287万t)まで解体戸数は減少するという推計結果となった。

これらの結果を野村総合研究所の研究者の方にヒアリングを行ったところ、やはり住宅は着工と解体の相関は強いという意見であった。また、住宅寿命のワイブル分布で求めた推計値と、着工に連動した推計値の開きについて、寿命の推計は潜在的ストックであり、顕在化するのには着工に連動した推計となるはずで、この開きをいかに縮めていくか、ストック分をどれだけ解体できるかということが課題となるのではないかという意見を頂いた。

#### 【建設系廃木材の必要燃料量の推計】

ここから木質チップの需要の推計となる。資源エネルギー庁の「長期エネルギー需給見通し」によれば、2030年におけるバイオマス導入見通しを、建設廃棄物については37万kWとしているが、既導入量はすでに33万kWとなっており、新規認定設備分(未稼働)を含めれば、ほぼ37万kWの容量に到達している。ここから、建設資材廃棄物の必要燃料量を推計すると、発電効率を23%、稼働率を75%として計算し、2015年で約227万t、2030年で約255万tとなり、約30万tの必要量の増加という見通しとなった。発生量の推計結果と比較すると、減少見通しの推計では賄えるかどうか課題となってくるだろうと思われる。

質問：この推計には、空き家対策についての状況は反映されていないのか。

回答：空き家対策以外にも、住宅の長寿命化なども、この推計には反映されていない。しかし、住宅の寿命で推計した結果を潜在的発生量、着工と連動した推計が顕在的発生量と考えると、この差を埋めていくのが、空き家対策等の政策となると考えられる。

意見：連合会としては、空き家対策等の法整備について強く要望していく必要がある。

意見：この発生量の推計は、あくまでも戸建て住宅のみから推計した結果で、2016年で600万t発生しているということになっているが、検証が必要となる。また、今後もこの推計結果と実際の発生量とを比較し、我々の取り扱い量と必要量を精査確認していく必要がある。

## POPs 廃棄物に係る実測調査報告

(原事務局長)

昨年環境省から依頼があり、連合会の各地域協会に協力をいただいた、POPs 廃棄物に係る実測調査結果について、事務局より説明があった。

POPs とは、残留性有機汚染物質の略で、国内で 1980 年代まで防蟻剤・防腐剤として使用されていた。現在、建廃由来の木質チップに POPs 処理木材も含まれている可能性があるということで、調査を行った。6 地域協会の 6 つの木質チップメーカーに協力いただいたが、現時点では問題となる数値ではない。今後専門の検討委員会で処理のあり方について検討されていくことになる。

## その他

北日本協会事務局より FIT の事業者認定について、会員から以下のような情報提供があったと報告された。現在のガイドラインでは、FIT の認定を取っている事業者が、間伐材由来の木質バイオマスに建廃チップを混ぜて 32 円材として出荷することや、集めた原木を全て未利用材の原木として出荷することが容易にできるという指摘があった。制度として罰則及び監視が必要ではないかということで、協会として山形の行政評価事務所へ意見を提出した。現在、総務省本省にこの意見を挙げているということだが、北日本協会としてはこのような指摘があったことは報告しておきたい。(北日本協会事務局 小島)

その他に特に発言はなく、理事会は終了した。

閉会 16 : 05

以上をもって全ての議案は終了し、この議事録通り相違ないとして、議長及び議事録署名人において記名捺印する。

平成 29 年 5 月 15 日

議 長 理 事 長 鈴木 隆 ⑩

議事録署名人 理 事 徳山 重男 ⑩

議事録署名人 理 事 船越 登 ⑩

議事録作成人 事務局 十川 有子 ⑩